

第4回蒲郡市地域バス協議会 議事録

- 1 日時：平成27年2月5日（木）15時～16時
- 2 場所：蒲郡市役所 本館2階 202会議室
- 3 出席者 委員 愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授 橋本孝明
委員 名鉄バス東部株式会社 富田尚之
委員 大塚地区総代会長 大岡肖好
委員 三谷地区総代会長 伊藤政志
委員 蒲郡町部地区総代会長 石郷岡幸雄（欠席）
委員 蒲郡東西北部地区総代会長 大場克海
委員 塩津地区総代会長 成瀬正明（欠席）
委員 形原地区総代会長 天野忠則
委員 西浦地区総代会長 杉山林一郎
委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 原田ます子（欠席）
委員 蒲郡市老人クラブ連合会 市川紀子
委員 蒲郡市社会福祉協議会 金原久雄（欠席）
委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 林明子
委員 蒲郡市総務部長 井澤勝明
事務局 蒲郡市安全安心課長 藤川弘行
蒲郡市安全安心課長補佐 竹下暁
蒲郡市安全安心課主事 足立昌平

4 議題

(1) あいさつ

5 協議事項

- (1) 保健医療センター線運行廃止について
- (2) ラグーナ線のダイヤ変更について

6 その他

7 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が10名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域バス協議会設置要領第5条3項の規定により会議が成立することが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

- ・ 安全安心課長より、前回の会議で協議した路線バスの再検討案については、1月15日に開催した第10回地域公共交通会議にて合意をいただいた。現在は、運行に向けてダイヤ調整を行っている。
- ・ 今回は、蒲郡駅とラグーナテンボス間の無料シャトル運行の影響による、一部路線の廃止、ダイヤ変更について、協議をお願いしたい。市内路線バス

の事業継続に向けて忌憚のないご意見を頂戴したいとの挨拶があった。

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 保健医療センター線運行廃止について

- ・ 事務局より、資料1に基づいて説明が行われ、保健医療センター線運行廃止について全会一致で合意された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 事務局に確認したい。保健所の蒲郡支所から厚生館病院前のバス停留所間について、500m以内の移動なら交通空白地とならず、市の公共交通総合連携計画との整合はあるとの考えでよいか。

(事務局)

- ・ 保健医療センター前から厚生館病院前まで450mなので、公共交通総合連携計画に記載されている500m以内であり、計画にも沿っていると考え

(委 員)

- ・ このバス協議会の上部組織として市公共交通会議がある。この組織は路線バスの変更などについて協議し、協議結果を上部組織に報告したい。

(委 員)

- ・ 蒲郡市の行政施設について、公共交通が接続していないものが多い。公共的なものを考えれば、市民会館、博物館、保健所など、市役所も含めて、これら施設に公共交通が接続していない。
- ・ この保健医療センター線の存在は、はじめて知った路線ではあるが、今後の高齢化を考えると、これら公共施設にバスで行けるようにすべきではないか。

(事務局)

- ・ 先ほどの指摘についてはしかるべき検討をさせていただく。

(委 員)

- ・ 主たる公共施設まで公共交通がないのはどうか。ラゲーナのような民間の施設には逆にいらぬのではないか。商業ベースからすると違うかもしれないが。

(事務局)

- ・ 既存の路線は、民間の交通事業者が運行し維持してきた路線であり、維持するために必要な部分は補助金を投入して維持している。
- ・ 公共施設に接続させるという意見は理解できるが、これまでの歴史の中で、市役所前に通過していた形原地区からの路線も、利用がなく廃止された経緯がある。
- ・ 住民の皆さんのご意見があり、利用があるのであれば、そうした路線の検

討もできる。形原地区での取組みは、初めて地域の総意を汲んで試行されるものである。

イ ラグーナ線のダイヤ変更について

- ・ 事務局より、資料2に基づいて説明が行われ、ラグーナ線のダイヤ変更について全会一致で合意された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ これまでの検討で、大塚地区・丸山住宅までは4往復確保するという議論をした。議論された便は確保されていると理解してよいか。

(事務局)

- ・ 4往復確保されている。

(委 員)

- ・ 平日の利用者数が6割程度となったとの報告があった。便数は16往復が7往復になっているため、実際に減った人数の割合で、便数が設定されたと理解してよいか。

(委 員)

- ・ 利用状況について休日は7割減となった。最近では、ほぼゼロに近づいている。無料バスを知らないで路線バスを利用されていると理解しており、無料シャトルバスと路線バスが並んでいると、路線バスは使われない。

- ・ 本来であれば廃線になってもしかたがない。事業性を考えると、年間2500万円の赤字をかかえる路線となった。減便をしても400万円の赤字になる。ラグーナへの訪問者、地域の生活路線の両方の意味があり、ゼロにはできないと考え、最低限維持のための水準としてこのダイヤを設定したと理解してほしい。

(委 員)

- ・ この協議会で議論した、町部、丸山住宅の足は確保しているという点は確認しておきたい。
- ・ ラグーナの運営が変わったことによる影響として減便した。

(委 員)

- ・ これは毎年見直しを行っていくのか。3年ぐらい運行するのか。減便するともっと利用者が減るのではないか。

(委 員)

- ・ 400万円の赤字が想定され、会社全体で議論している問題でもあることから、会社の経営判断によって1年をまたずに廃止もありえる。経費をかけても利用されればよいが、事業性を考えるとこのダイヤ設定が限界。指摘の通りダイヤの本数が減ると利用者が減ることはあるかもしれない。

ウ その他

(事務局)

- ・ 本日の協議結果については、地域公共交通会議では書面協議として扱い、3月に開催する交通会議で報告する対応を行う。
- ・ 次回は必要に応じて開催させていただく。開催の際には、事前に連絡させていただく。

以上